

飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想

平成29年6月

目次

1. 構想策定の背景と目的	1
2. 明日香村の概要	2
3. 飛鳥宮跡周辺地区の位置づけ	14
4. 飛鳥宮跡周辺地区の現状と課題	16
5. 地区の現状と課題を踏まえた飛鳥宮跡周辺地区のまちづくり基本方針	20
6. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくりイメージ	21
7. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくりでおこなう事業（案）	22
8. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくり構想図	23

1. 構想策定の背景と目的

1400年前、我が国初の都が築かれた明日香村には、我が国が律令国家としての体制を整えていった歴史を解明する上で欠くことのできない貴重な文化財が数多く分布している。これらの文化財を守り伝えるため、これまで発掘調査や文化財の指定、さらには「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」や「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」などにより歴史的風土の保存を進めてきた。

一方、観光の側面では、観光客の停滞・伸び悩みという課題もみられる。その背景には、古代の遺跡という大きなインパクトがあるなかで、その魅力的な文化財が、十分に活かされていないことがあげられる。

さらに、明日香村の歴史文化の保存を担うことが期待される若者・子どもが減少している。近年、全国的に少子高齢化が進むなかで、明日香村ではその傾向が極めて顕著にみられる。理由の一つは、規制により、居住するための空間が少ないこと、また、生活をしていくための生業となる産業が村内で発展していないことがあげられる。このことは、各大字で受け継がれてきた祭りや行事が継続困難となったり、歴史的な風情を醸し出す建物が空き家となったり、世界に誇る貴重な文化財と一体となってその魅力を高める山林や農地が荒廃してしまったりという形で顕在化してきている。

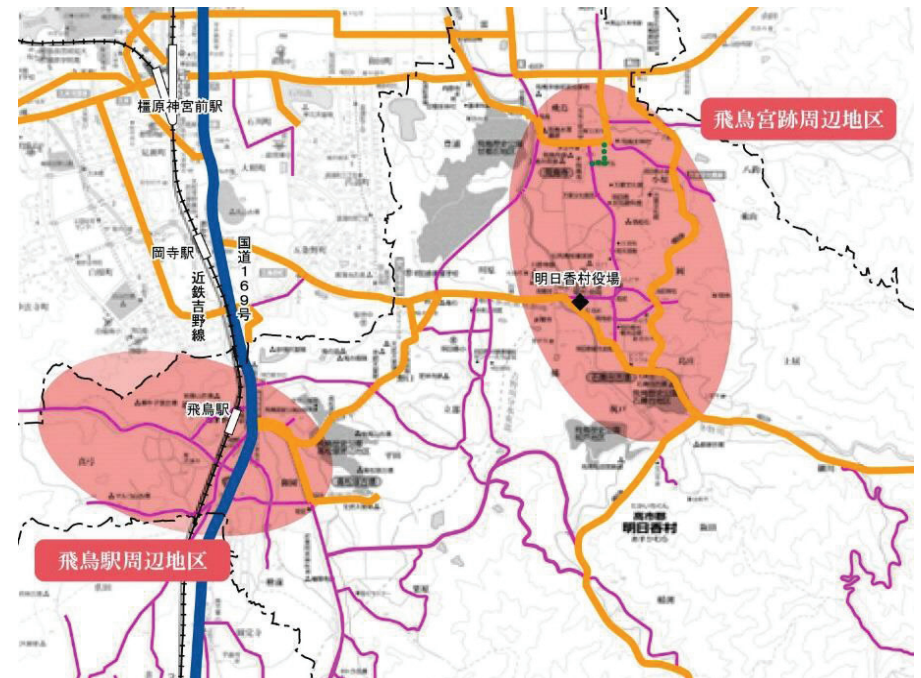
このような大字で受け継がれてきた文化財やその周辺環境は、大字住民の地域への誇りや愛着を育む拠り所となるものであることから、それらが失われることにより、益々人口の減少や若者の流出が進み、地域の活力を低下させる一因となっている。

よって、古代の遺跡に抱かれながら、この“あすか”の地で生活を続けてきたことは、他都市にない大きな特色であり、そのなかで育まれてきた歴史や文化、基幹産業などにも光を当て、遺跡等と関連付けながら、その魅力を多様化し、より一層の観光振興を図っていくことで地域の活性化を図ることが重要である。

そこで、ほぼ全域に文化財が眠り日々発掘調査が行われている村全体を博物館ととらえ、美しい景観、豊かな自然、安全でおいしい農産物、人々の多様な活動など村の魅力のすべてを活かして訪れる人をもてなす村づくりを目指す「まると博物館づくり」を推進するため、県と連携しながら明日香村のまちづくり基本構想を策定するものとする。

明日香村まちづくり基本構想は、明日香村が有する文化財や景観などの地域資源を最大限に活かし、それらの資源を一層、磨きあげることを通じて、各地区が魅力あふれる暮らしやすい地域へと発展していくことを目的として、基本的なまちづくりの考え方や今後の重点的な取組を示す道筋を示すものである。

この構想では、「飛鳥宮跡周辺地区」ならびに「飛鳥駅周辺地区」をモデル地区として、地区の課題を踏まえ、生き生きとした地域を育み、展開していくことを目指す。



2. 明日香村の概要

(1) 村の上位計画

1) 第4次明日香村総合計画（平成22年～31年）

◆村の将来像

『古都の風格を育み、住む喜びと新たな魅力を創造する—明日香を「感じ」「知り」「守り」「育てる」むらづくり』

◆戦略的施策

村づくりのエンジンとなる施策の分野 ～ 世界に誇る「文化財」、明日香法や村民の努力により守られてきた「景観」、それらを支えてきた「農」、これらすべてを経済活動の活性化につなげることのできる「交流産業」～ を「戦略的施策」として位置づけ、これら「農」「文化財」「交流産業」「景観」の魅力を高め、『「明日香」を感じることができる、もてなしの村づくり』を進める、つまり「まるごと博物館構想」※を推進することで、交流人口・定住人口の増加と地域経済の活性化を目指す。

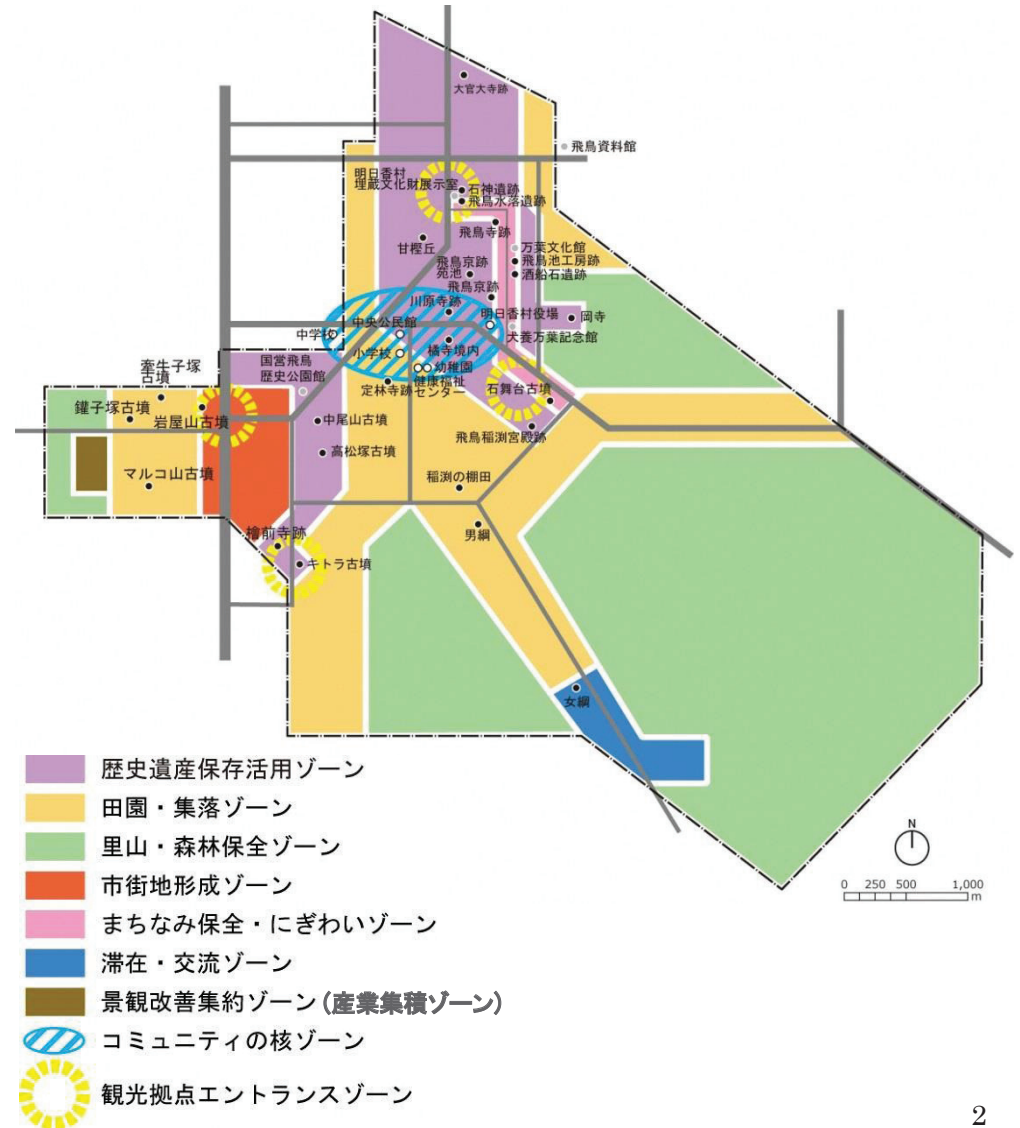
◆基本施策

安全・快適で生き活きとした暮らしをつくり、村づくりの主役である人を守り育て、活力ある産業・地域社会を形成し、住民が心から『住む喜びと誇りを感じられる村づくり』を進める。

※「まるごと博物館構想」

ほぼ全域に文化財が眠り日々発掘調査が行われている本村は、それだけでももう村全体が博物館といえるが、美しい景観、豊かな自然、安全でおいしい農産物、人々の多様な活動など村の魅力のすべてを活かして訪れる人をもてなす村づくりを目指す「まるごと博物館構想」を推進する。

◆全体の土地利用方針図



2. 明日香村の概要

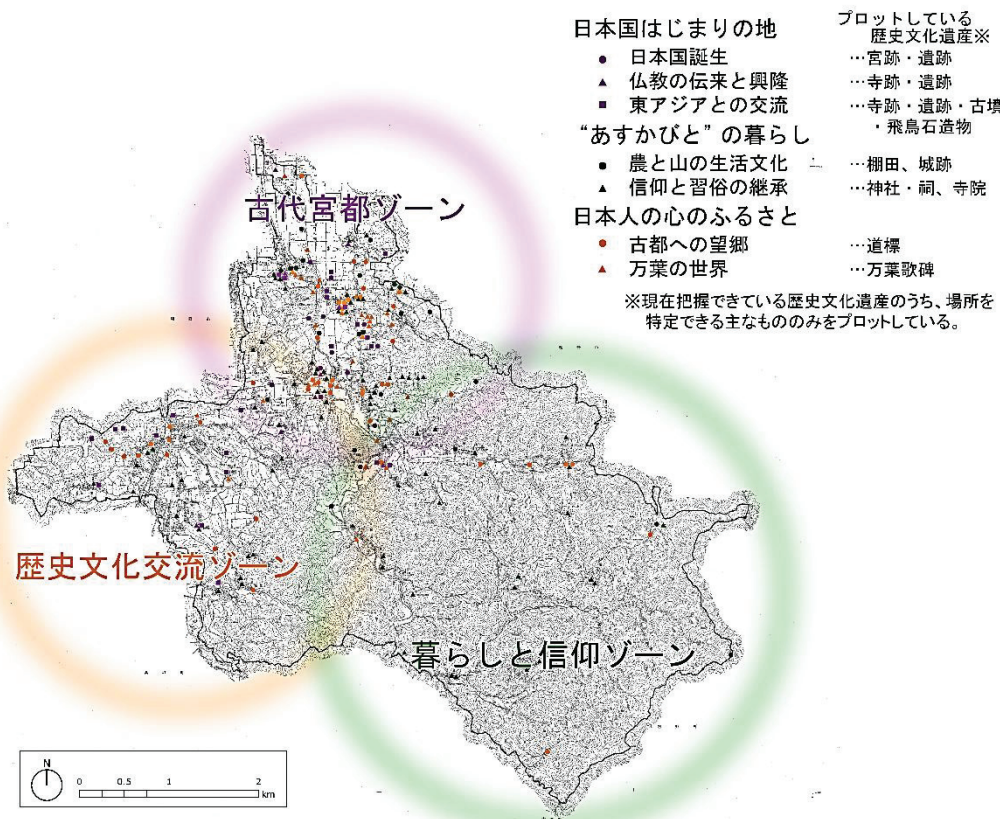
2) 明日香村歴史文化基本構想（平成26年度策定）

「明日香まるごと博物館づくり」の理念を具現化し、その推進を支援するとともに、飛鳥・藤原の包括的保存管理計画と連携を図り、世界遺産の登録に向けた取り組みを後押しするなど、歴史文化を活かしたむらづくりの各種取り組みを具体化する。

◆基本理念

「美し “あすか”」を学び、育み、活かす

◆歴史文化保存活用区域のゾーン区分



3) 第4次明日香村整備計画（平成22年度～31年度）

◆基本理念

6世紀末から7世紀末にかけての約100年の間、おおむね明日香村の区域内において都が営まれた。

また、この地で律令が初めて制定されるなど、明日香村は我が国の古代国家体制が形成された地であるとともに、中国や朝鮮半島など東アジア文化の影響を受け飛鳥文化が開花した地域である。

明日香の価値はまさにこの歴史そのものであるが、明日香を訪れた誰もがその価値を体感し回想することは出来ないのも事実であることから、明日香における歴史展示の推進を図ることが必要である。

また、歴史的文化遺産と周辺の環境が一体となった他に類例を見ない貴重な明日香の歴史的風土については、明日香村特別措置法等の規制により概ね良好に守られてきたが、個別に散見される問題への対処や、住民参画の推進とともに国民の理解協力と参加、また地域の自主的・自立的な取り組み等により、歴史的風土の維持・向上を図ることが必要である。

一方、人口減少に代表される地域活力の低下は、明日香村にとっての最大の課題である。

地域活力を向上させるためには、明日香の持つ価値である「歴史」及び「歴史的風土」をこれまで以上に活かした取り組みが必要である。

このため、歴史的風土を形成する重要な要素である「農」空間の維持・再生を図るとともに、歴史展示の推進により明日香の魅力発信等を行うなど、観光・交流振興の取り組みが求められる。

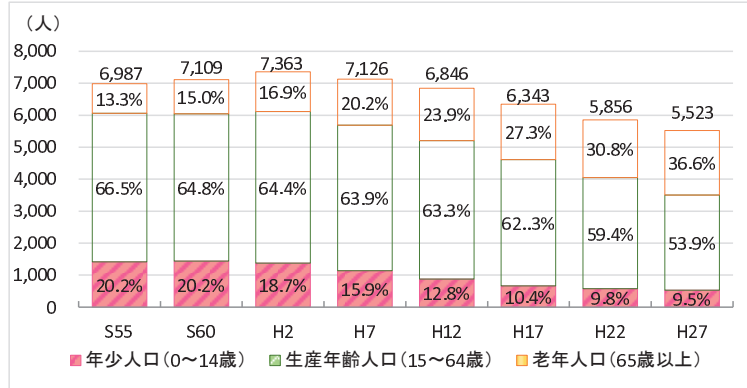
これらの取り組みにより、村民が住むよろこびを感じ、また村外の方々が住みたくなるような村づくりを行い、明日香村の地域活力向上を図る。

2. 明日香村の概要

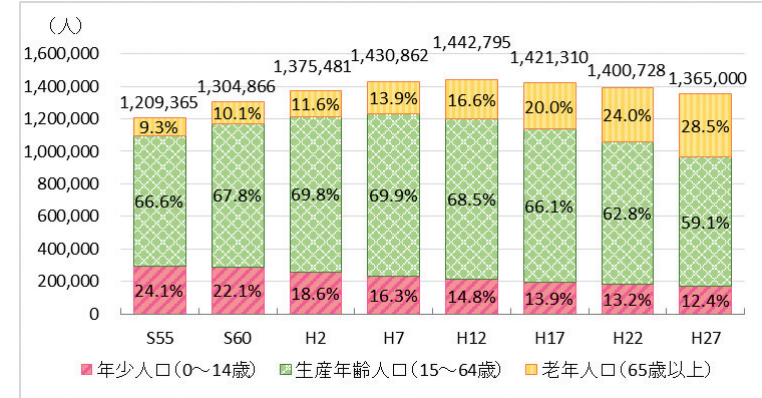
(2) 村の人口

- 明日香村では、60歳代の層の人口が最も多い。一方で、団塊ジュニア世代の人口が少ないのが特徴であり、また、年少人口も少ない。
- 村の総人口は、平成2年をピークに人口減少傾向。

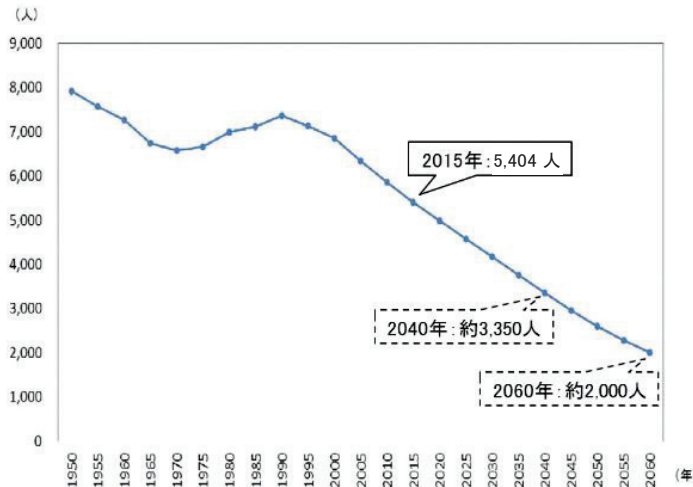
- 奈良県全体と比較しても少子高齢化傾向が著しい。
- 高齢化が進み36.6%。(H27年国勢調査)
- 平成27年国勢調査では年少人口が急激に減少して9.5%。



明日香村の人口動態 (出典：国勢調査)

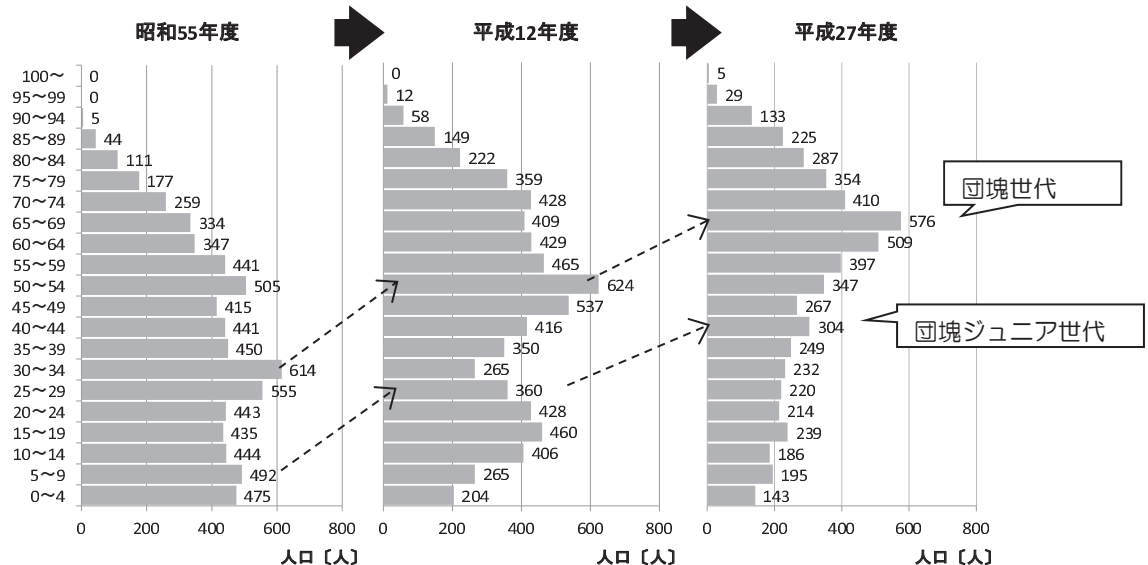


奈良県の人口動態 (出典：国勢調査)



明日香村の将来人口の推移

(出典：国立社会保障・人口問題研究所)



明日香村の年齢別人口の推移

(出典：国勢調査)

2. 明日香村の概要

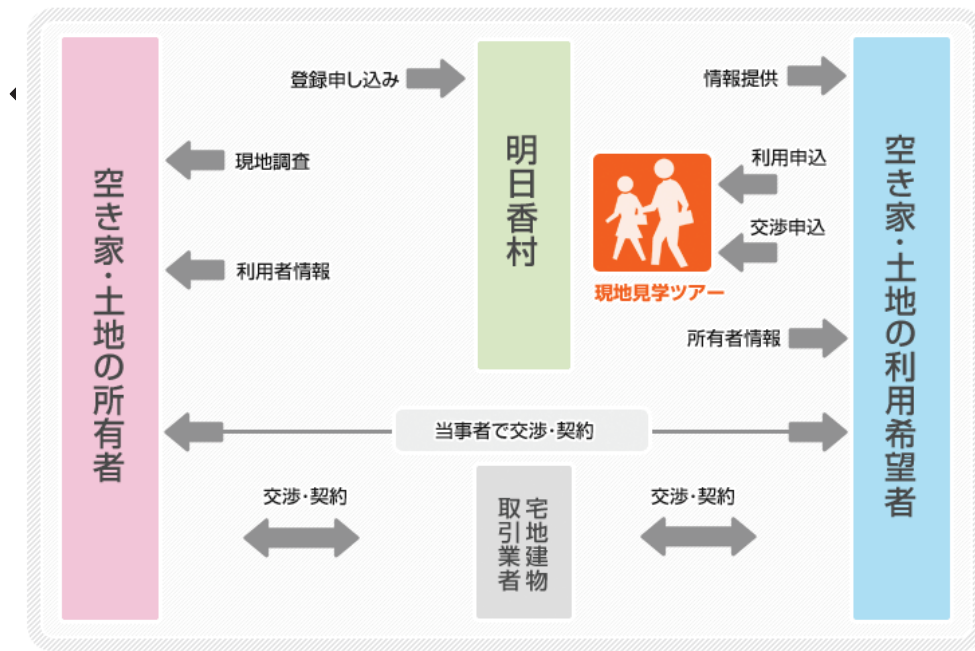
(3) 空き家の状況

明日香村内における空き家等の実態調査によると、外観調査で108軒の空き家が存在することが確認されている。

◆空き家等活用バンク制度の取組

明日香村では、空き家等活用バンク制度により、空き家活用に関する情報収集や啓発活動の推進、空き家改修等に対する支援を行っている。

また、人口誘導施策に関する情報として定住希望者への空き家等の紹介をはじめ、新規就農希望者には、農地・居住確保に関する情報を、店舗・宿泊施設等観光関連サービスビジネスの出店希望者には、店舗として利用可能な空き家や土地の紹介を行っている。



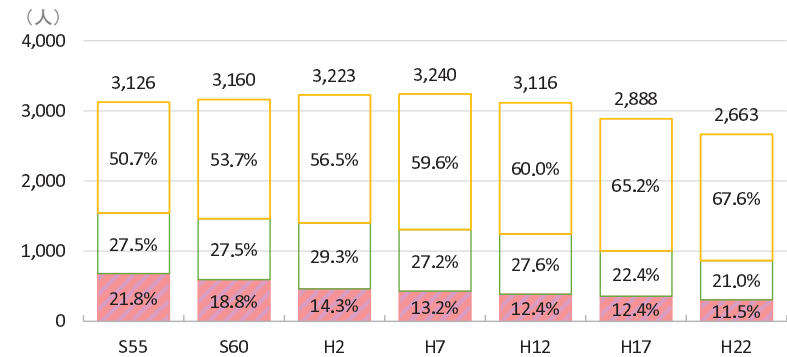
空き家等バンク制度の仕組み

(出典：明日香村資料)

(4) 産業動向

◆産業別就労者数

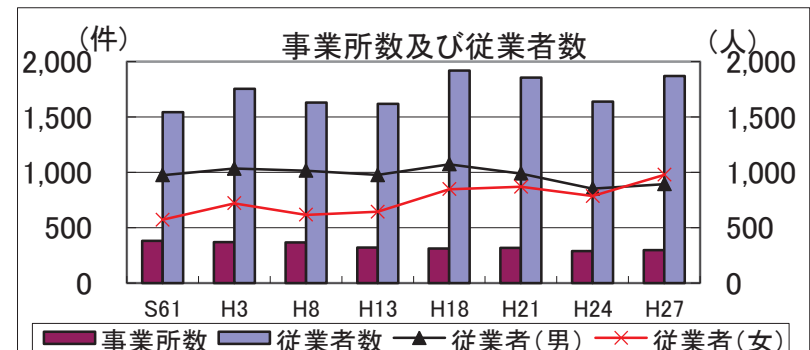
明日香村の産業別産業別就労者数を平成22年度国勢調査結果からみると、第3次産業就労者数が67.6%と最も多く、第2次産業就労者数は21.0%、第1次産業就労者数は11.5%となっており、人口減少や高齢化とともに就労者数全体も減少している。



産業別就労者数の推移 (出典：国勢調査)

◆事業所数及び従業者数

村内の事業所数は昭和61年からほぼ横ばいの状況が続いている。従業者数については、平成18年がピークとなっている。平成27年には従業者(女)が従業者(男)を上回っている。

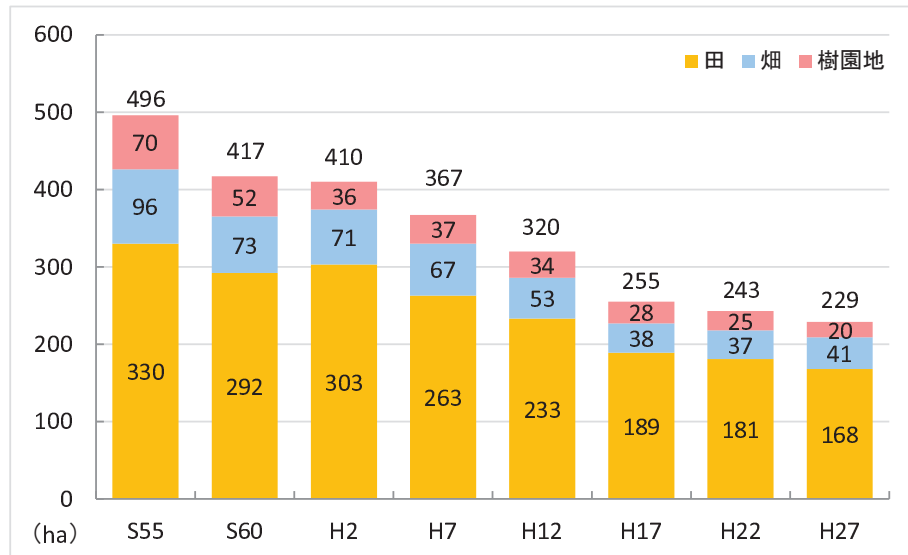


(出典：経済センサス)

2. 明日香村の概要

◆農業

山間に切り開かれた畑から谷間に続く等高線に沿って縞模様の造形美を造り出す棚田や、斜面に彩りを醸し出す果樹園、稲穂たなびく広がりのある水田が広がる。



農地面積の推移

(出典：農林業センサス)

水稲は、明日香村の主要作物であり、農業経営の基幹となっている。一方、都市近郊農地の有利性を活かしたイチゴ、トマト、軟弱野菜などの生産もみられる。

イチゴ栽培は、奈良県育成種「あすカルビー」が全面的に普及し、一部には高設栽培が導入され「いちご狩り農園」としてオープンし、週末になると県内外からの家族連れや団体客が訪れ、いちご狩りを楽しんでおり、村の観光産業のひとつとなっている。

◆農に関する取組

ア. 農林産物直売所

あすか夢販売所（平成 17 年（2005）3 月 31 日）、明日香の夢市・夢市茶屋（平成 18 年（2006）4 月 1 日）、あすか夢の楽市（平成 21 年（2009）12 月 16 日）が設置され、いずれも多くのお客で賑わい、順調に売上額を伸ばしている。特に、あすか夢販売所と明日香の夢市では、近隣市町村のリピーターが多く、観光客以外のニーズにも応えている。



あすか夢販売所

イ. 集落営農組織等

真弓地区では、真弓集落営農組合において安全・安心に配慮して栽培された野菜等を、訪問者が畑から直接収穫する形で販売する「はたけの八百屋さん」を実施している。購入希望者は、採れ頃の野菜をインターネットで確認することができ、現地ではスタッフが農地まで案内し、収穫方法の手ほどきを行っている。



はたけの八百屋さん

ウ. あすかオーナー制度

明日香村では農を通じた都市との共生を提案し、負担と喜びを共に分かち合う「あすかオーナー」を募集している。また、棚田オーナー制度については、稲渚地区において、NPO 法人明日香の未来を創る会が創設され、自立的な運営がされている。

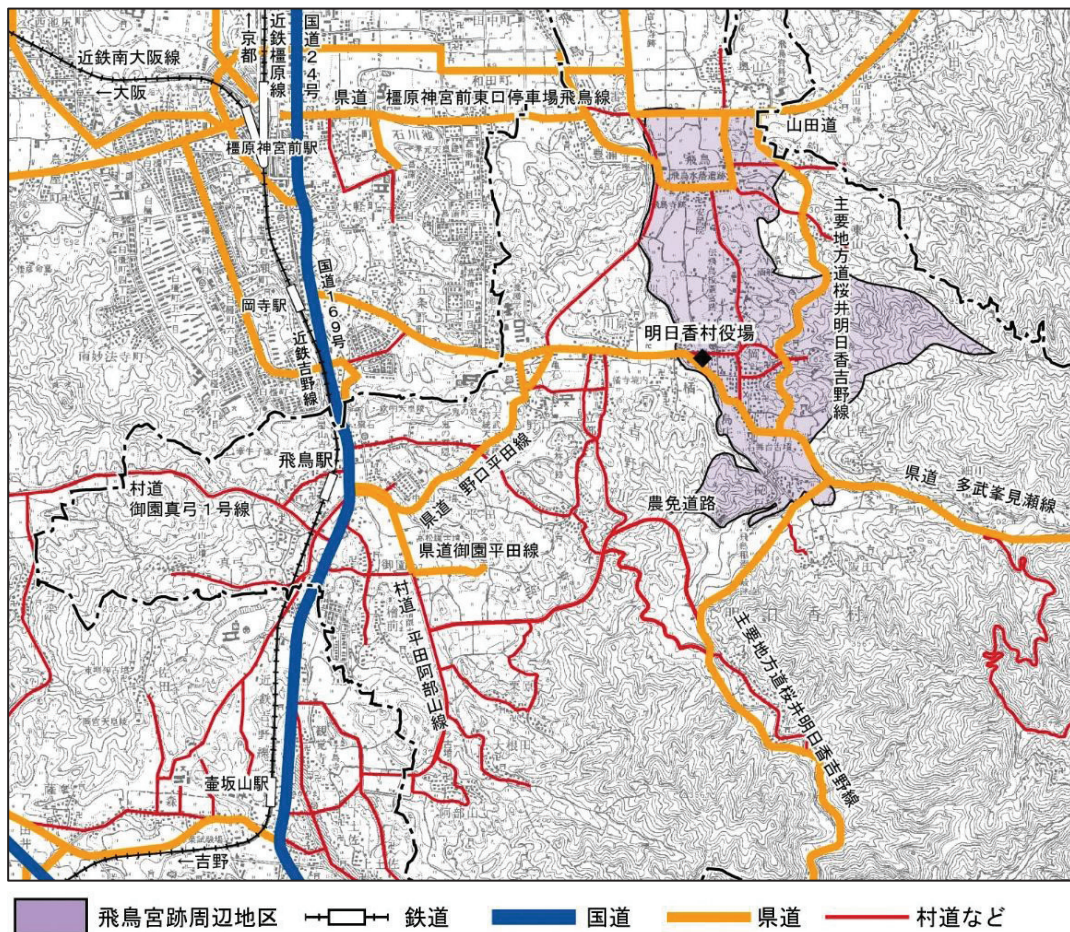


オーナー制度の活動風景

2. 明日香村の概要

(5) 交通

明日香村は、近鉄吉野線及び国道169号が村の西側を南北に通っており、これに県道、村道が繋がり道路網が形成されている



明日香村の交通体系

◆来訪手段

- 明日香村への村外からの来訪手段は、自家用車（約44%）が最も多く、次に鉄道を利用して「飛鳥駅で下車」（約38%）が続く。路線バスの利用者（約3%）は少ない。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
鉄道（飛鳥駅下車）	47.4%	55.6%	41.3%	33.3%	33.3%	35.0%	39.8%	38.0%
鉄道（岡寺駅下車）	0.0%	2.8%	3.3%	1.0%	2.7%	3.3%	2.0%	2.6%
路線バス（周遊バス）	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	1.3%	2.5%	9.2%	2.8%
観光バス・マイクロバス	26.3%	0.0%	4.3%	4.8%	5.3%	3.7%	7.1%	4.9%
自家用車（マイカー）	26.3%	33.3%	38.0%	47.6%	48.7%	51.9%	32.7%	44.3%
バイク	0.0%	2.8%	5.4%	0.0%	1.3%	0.4%	0.0%	1.3%
その他	0.0%	5.6%	7.6%	8.6%	7.3%	3.3%	9.2%	6.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（出典：2013年明日香村観光実態調査）

◆村内周遊手段

- 村内の周遊は、徒歩（約51%）が最も多く、レンタサイクル利用（約21%）が続く。自家用車による周遊は約17%に留まる。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
周遊バス（かめバス）	0.0%	4.8%	1.8%	6.6%	2.8%	5.3%	14.2%	5.4%
観光バス・マイクロバス	0.0%	0.0%	0.9%	1.6%	1.7%	1.8%	3.5%	1.7%
自家用車（マイカー）	10.0%	4.8%	15.3%	17.2%	20.3%	19.9%	15.0%	16.8%
バイク	0.0%	2.4%	2.7%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.7%
レンタサイクル	30.0%	36.1%	36.0%	23.8%	18.1%	14.6%	6.2%	20.7%
徒歩	60.0%	49.4%	39.6%	46.7%	52.0%	54.1%	59.3%	51.2%
その他	0.0%	2.4%	3.6%	4.1%	4.0%	4.3%	1.8%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

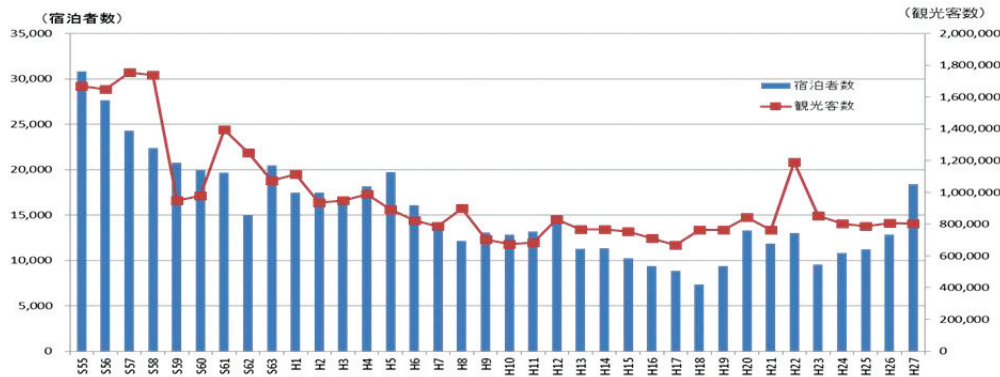
（出典：2013年明日香村観光実態調査）

2. 明日香村の概要

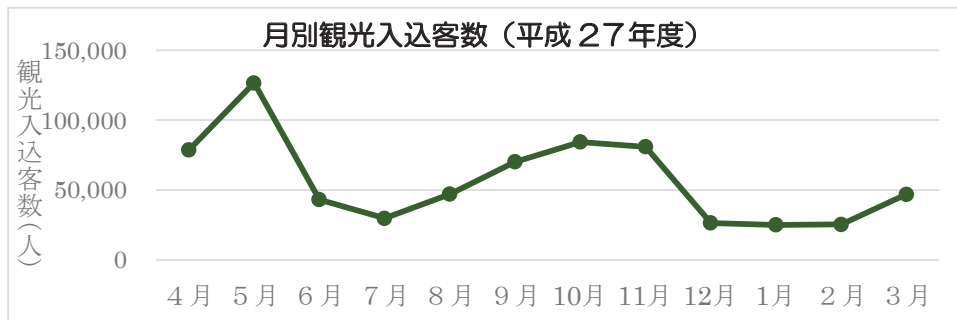
(6) 観光動向

◆入り込み客数

- 観光客数は昭和 57 年をピークに減少し、平成 26 年はピーク時の半分以下になっている。平成 22 年は平城遷都 1300 年事業(H22.4.24~11.7)で一時的に観光客は増えている。



- 村内宿泊者は、観光来訪者の約 1.6%で大半が日帰り観光となっている。
- 近年の宿泊者の増加は民家ステイ(教育旅行)の影響が大きい。
- 年間の観光動向をみると、春(4月~5月)および秋(9月~11月)に集中しており、特に5月が1年のピークとなっている。



※村観光施設(石舞台古墳、高松塚壁画館、飛鳥資料館、国営飛鳥歴史公園館、県立万葉文化館、亀形石造物、犬養万葉記念館、橘寺)における月別観光入込客数総計
(出典:明日香村資料)

◆取組

●飛鳥民家ステイ

- 明日香村では、体験学習のため学生を受け入れる「飛鳥民家ステイ」を行っている。農業や郷土料理作り体験などのほか、史跡めぐりや歴史探検ガイドツアーなど、飛鳥地域ならではのプログラムも充実している。
- 台湾やマレーシアなど海外からの受入れも積極的に行っており、平成27年度の民家ステイ利用者泊数は、4,250泊で、その内2,348泊は外国人学生である。



教育旅行の取組み

◆観光客の明日香村に対するイメージ

- 観光客が明日香村に持つイメージは、アンケート調査結果からは「古代史」が最も多く、その古代を象徴する「古墳」が続く。
- 基幹産業である農業を基盤とした「農村風景」や「緑豊かな景観」についても明日香村のイメージとして受け取られている。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
古代史	34.4%	30.1%	33.3%	33.5%	34.3%	34.2%	32.1%	33.2%
寺社	15.6%	8.8%	8.2%	9.3%	4.2%	6.2%	5.4%	6.9%
古墳	34.4%	39.7%	36.1%	33.0%	33.3%	29.0%	25.6%	31.9%
農村風景	6.3%	8.1%	6.6%	10.2%	12.3%	12.6%	16.1%	11.2%
緑豊かな景観	6.3%	11.0%	13.1%	11.2%	12.9%	14.8%	14.9%	13.3%
その他	3.1%	2.2%	2.7%	2.8%	2.9%	3.3%	6.0%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(出典:2013年明日香村観光実態調査)